

● 事業報告

「木育普及事業」、「世界農業遺産フィールドカフェ」開催！

● 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライトは、県の紀南地域に高等教育機関が少ないことから、大学、和歌山県、紀南地域11市町村等が連携して「知の拠点」を構築することを目的に設置された。開設から現在まで、県、市町村、大学等で構成される連携協議会の支援を受けながら、住民や連携組織のニーズを汲み取り、それに応じた大学の専門知からの教育・研究等の事業展開や活動の範囲を広げ、本学の教育・研究活動を社会還元する場にもなっている。和歌山県立情報交流センター Big.U 内に所在。



和歌山県立情報交流センター ビッグ・ユー

南紀熊野サテライトでは、2005（平成17）年から高等教育を地域で提供している。年間12～14科目の正規科目を開講。経済学研究科科目等履修の大学院科目と学部開放科目（連携展開科目）を聴講できる2つのコースである。学部開放科目は、社会人受講生、和歌山大学生、高校生が同じ教室で受講している。

2021年度は、広大な南紀熊野地域をキャンパスに、大学院科目68人、学部開放科目294人、計362人が受講した。



地域で開講の学部開放科目（新宮市）

大学講義の開講とは別に、地域の求めに応じたプログラムも実施。地域経営塾「南紀熊野観光塾」や、科学、歴史、文化に触れる「サイエンスカフェ」（ジオカフェ、世界農業遺産カフェ）などの学習機会を、年間に6回～8回程度実施している。この事業報告では、林業振興の「木育普及事業」及び、地場産業を学ぶ「世界農業遺産フィールドカフェ」の事例を報告する。



地域経営塾「南紀熊野観光塾」（田辺市）

● 1) 木育普及事業

木育関連事業の実施経緯と特徴（2019～2021年取り組み）

紀伊半島の県土の9割は森林であるが、林業従事者の減少、プラスチック製品の普及で木離れが進んでいる。

近年、和歌山県内において、消費者への紀州材の普及活動として、林業関係者を中心に、木育事業が推進されている。木育事業の教育分野への繋ぎはまだ途上であり、住民への普及も課題が多い。

2019年より、和歌山大学観光学部大浦由美教授、教育学部高橋多美子准教授等と共に「[木]の国わかやま」における木育活動の効果的な普及と紀州材活用促進事業」での調査研究を実施。この研究事業では、研究成果の報告と、地域社会に貢献することを目的として、地域の企業や高校、市民団体等と一緒に、地元の子供も達が紀州材に触れる体験機会の提案や、木で育む「木育」の普及促進に関する活動をしている。次頁に木育普及活動の一部を紹介する。



サテライト内での木育展示



紀州材に触れる子ども達

木育普及活動

● 2021 木育普及活動

事業名：わかやま「体験の風をおこそう」運動推進事業 西牟婁地方「木の国わかやま木育学校」(2021年10月対面実施)

主催：西牟婁地方青少年育成市民会議連絡協議会(木の国わかやま木育事業実行委員会)、後援：田辺市教育委員会、白浜町教育委員会、上富田町教育委員会、すさみ町教育委員会協力：和歌山県立神島高等学校、和歌山大学南紀熊野サテライト、きのくに木育ラボ、わかやま木育キャラバン実行委員会

内容：青少年育成事業の一環で、西牟婁(田辺市、上富田町、白浜町、すさみ町在住)の小学4年生以上を対象に公募して「木の国わかやま木育学校」と題して、「紀州材龍神ヒノキの椅子作り」親子体験を実施した。36人の募集に対して125人の応募があった。地元テレビでも紹介されて木育普及活動への認知も深まった。協議会では、次年度の開催に向けて木工材に電子部品を搭載した木工キットを開発中。

他、地元小学校での親子教室(2021年11月)

対象：田辺市内小学1年生から6年生20人と保護者

内容：「紀州材椅子作り」紀州材を活用した木育の体験機会を提供した。



2021 木の国わかやま木育学校の様子

2019 木育フォーラム会場の様子

● 2020 木育普及活動

「木の国わかやま木育体験～オンライン木工体験～」2020年8月
・主催：西牟婁地方青少年育成市民会議連絡協議会(木の国わかやま木育事業実行委員会)、後援：田辺市教育委員会、白浜町教育委員会、上富田町教育委員会、すさみ町教育委員会、南紀こどもステーション・協力：和歌山県立神島高等学校、和歌山大学南紀熊野サテライト、きのくに木育ラボ、わかやま木育キャラバン実行委員会

・概要：地域の子どもたちを対象に、紀州材を活用した木工体験の機会提供と地域の高校生と大学生、大人が協力して事業を実施することで異年齢で活動できる環境づくりを推進。希望者が材料を購入して動画を見ながら自宅で木工体験を行う。神島高校生が動画撮影。木工キットは和歌山大学生が作ったコマ3種セット、あかね材を使った照明づくり、備長炭の風鈴づくり、龍神材ヒノキの椅子作り、木っ端で作るビー玉迷路、紀州材の手作りおもちゃ体験、紀州ヒノキのスキのカンナ屑など。木工キットを事前配布してオンラインでの実施は、県内初の取り組みとなった。



● 2019 木育普及活動

「木の国わかやま 木育フォーラム in 南紀田辺」2019年8月

場所：和歌山県情報交流センター Big-u 多目的ホール

主催：高校教育機関コンソーシアム和歌山 運営事務局、きのくに木育ラボ、協力：和歌山県立神島高等学校、和歌山大学南紀熊野サテライト、わかやま木育キャラバン実行委員会

内容：講演、トークセッション、基調講演「木育ってなあに? ~ウッドスタートで地域を元気に~」講師：東京おもちゃ美術館副館長馬場清氏、トークセッション進行：和歌山大学食農総合研究所長大浦由美氏、登壇：田辺市長真砂充敏氏、BokuMoku 副代表竹林陽子氏、木の国わかやま木育キャラバン実行委員、株式会社山長商店取締役迫平隆志氏、和歌山大学教育学部 幼児教育高橋多美子氏、信愛女子短期大学花岡隆行氏、野村真弘氏(職名、所属は当時のもの)
併設：紀州材の木のおもちゃキッズスペース、夏休み木工体験絵本よみかき、高校生、大学生による森林OXクイズなどを実施。多くの親子連れや教育関係者で賑わった。

● 2) 世界農業遺産関連の活動

事業名：「世界農業遺産フィールドカフェ」2021年12月

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、協力：まちキャンパスプロジェクト

内容：世界農業遺産を学ぶサイエンスカフェを野外で実施。

梅システムマイスターの解説で、梅振興館、炭窯を見学。研究者と学生、地域住民が梅や炭の活用の案を出し合った。参加学生が現地での体験を元に、学食のランチペーパーや梅や炭火焼きメニュー開発の打ち合わせに参加。学食ランチペーパーは2月にクリエの学生チームが試験配布を実施した。

地域産業を学ぶ副教材開発2件制作

①「うめぼしのできるまで」学習下敷き制作、配布

田辺市、みなべ町小学生と保護者にアンケート調査

②「世界農業遺産みなべ田辺の梅システム地域学習テキストブック梅vol. I」冊子制作・配布

他、「世界農業遺産を学ぶ親子教室」2021年8月開催

支援。(テレビ取材あり)



2021世界農業遺産
フィールドカフェの様子



2021制作配布された学習教材
(左:下敷き、右:冊子)

● 今後に向けて

南紀熊野サテライトは、地域の「知の拠点」として、高等教育機会の提供だけでなく、持続可能な地域振興につながる教育研究機会の創出の支援など、日々変化する地域に寄り添い、共に活動している。設置後17年が経過した現在、南紀熊野サテライトで学んだ学生や社会人受講生等が、地域で教える側となり活躍している。2022年度は、今後6年間の実施計画「4期アクションプラン」を策定する。今後も、大学の教育・研究の支援と社会貢献の機会を創造していく。

事業に関するお問い合わせ

南紀熊野サテライト

E-mail : nankuma@ml.wakayama-u.ac.jp

URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/>

